青年部の観光農園

―JAかみつが 西方青年部(栃木県)―

研究員　若林剛志

1　JAかみつが 西方青年部の紹介

JAかみつがは鹿沼市、日光市および西方町を管内としており、管内の面積は栃木県の約3割を占める。稲作のほか、いちごやにらなどの園芸作物の栽培が盛んな地域である。

当JA青年部は316名で構成されている。管内が広いこともあり、当JA青年部の活動は支部単位での活動が中心となっている。西方青年部（西方支部）には農業専業の22名が所属しており、うち16名がいちごを中心とした園芸農家である。

西方青年部は、10年程前に部員の減少から活動を休止した時期がある。しかし、8年程前に再度西方青年部を立ち上げたいという声が上がり、3名で再スタートを切った経験をもっている。

2　西方青年部の取組み

西方青年部の主な取組みは観光農園であり、一般消費者を対象としたいちご狩りをゴールデンウィーク中に開催している。年1回の取組みであるが、既に3回実施しており、参加者の募集から全ての運営を西方青年部中心に行っている点が特徴的である。そのほかに、夏から秋にかけては、地域の子供たちに対してさつまいもの苗の定植から収穫までの栽培指導等も行っている。

今回取り上げるのは、西方青年部の主たる活動となっている観光農園についてである。この取組みは、青年部が観光農園を開催するという点だけでなく、一般消費者と青年部が交流しているという点で全国的にも例が少なく、大変興味深い。

3　青年部の観光農園(いちご狩り)

観光農園といってもこの取組みは商業的なものではなく、あくまで消費者との交流を深め、交流の結果を今後の生産のための糧とすることに目的がある。また、年1回の開催とはいえ、一般消費者向けに開催されること、

いちご狩りの圃場へは町の協力によりバス移動

手を赤く染め、いちご狩りを楽しむ参加者

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。

いちご狩りの開催案内から運営までを西方青年部自ら行っていることは注目に値する。

いちご狩り参加のための応募は、はがきによっており、毎年2月ごろに西方産のいちごを置いているスーパー等のいちご売り場に応募はがきが設置される。これは、仲卸業者やスーパー等の協力のもとに行われている。4月に応募されたはがきの中から抽選を行い、当選者に招待状を送付する。4月からいちご狩り開催の当日までは、何度も打合せを重ね、段取りをつける。いちご狩り開催の5日前には、いちご狩りを実施する部員の圃場に視察に行き、開催可能かどうかを確認する。今年の参加者数は、当初30組150名を予定していたが、応募者多数により、100組500名とし、多くの方々に楽しんでもらうこととした。

もちろん、これだけの参加者に西方青年部22名のみで対応することは難しい。この西方青年部主催のイベントには、農協役職員、西方青年部員の家族、農産物加工組合等の農協関係者のほか、西方町も協力している。

開催後は毎年反省会を実施し、運営上の問題点や参加者へ実施したアンケート結果を来年の開催へ反映させる努力も怠っていない。

西方青年部担当の農協職員は、「圃場を提供し、運営している西方青年部が主体のイベントであることはもちろんだが、様々な方々の協力によりこのイベントが成り立っていることも事実である。各部員もそのことを認識しており、運営においては様々な点に配慮している」と話していた。

4　おわりに

西方青年部を訪問してまず感じたことは、生産意欲の糧を貪欲に求める青年部らしさである。聞き取りの中で、「接客は難しい」との意見があった。しかし、それでも「消費者との意見交換が、今後の生産意欲につながる」と交流の重要性を指摘していた。

更に感じたことは、部員の配慮の心である。この取組みは、あくまでボランティアとして実施されている。しかし、そこかしこに西方青年部の配慮がなされていた。例えば、万一に備え、看護師の方にも協力いただいている。加えて、ゴールデンウィークにいちご狩りが実施されるのも、「この時期まではいちごがおいしく味わえるから」という部員の配慮からである。各部員がこの精神を持ち続け、更なる成功を収めることを期待したい。

（わかばやしたかし）

西方産農産物をPR・販売

西方青年部のメンバー

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。